

先端臨床薬学概論 (Introduction to Advanced Clinical Pharmacy)					担当教員
					教授 矢野 義孝 教授 西口 工司 講師 辻本 雅之 助教 峯垣 哲也
科目群	開講期	授業形態	単位数	必修等	
薬学専門教育（講義）	6年次 前期	講義	1単位	選択	

【概要】

薬剤師は、社会から有効かつ安全で安心な薬物療法の提供を期待されている。この期待に応えるためには、患者個々の遺伝子情報や病態に応じた医薬品の選択、投与量の調節など、医薬品適正使用の推進に必要で確かなエビデンスの創生が重要となる。本講義では、医薬品適正使用を推進するために臨床の最先端で行われている先進的な研究内容や実践的な取り組みについて概説する。また、医薬品適正使用の推進、さらには医薬品開発のためにも必須となる臨床研究の方法、統計解析手法、臨床試験統計論文の読み方について、実践的な解説を行う。

【授業の一般目標】

医薬品適正使用の推進に必要なエビデンスを創生するために、医薬品適正使用に関する先進的かつ実践的な現状の取り組みを理解するとともに、臨床データの解析手法を習得する。

【準備学習(予習・復習)】

5年次までの関連科目の教科書や配布したプリントに目を通すなど、予習した上で講義に臨むこと。受講後は、必ず講義当日のうちに講義内容を見直し、練習問題を使用するなどして復習すること。予習と復習を合わせて1週間あたり3.5時間程度の学修が必要であると考えられる。

【学習項目・学生の到達目標と、対応するSBOコード】

No	学習項目	担当教員	学生の到達目標	SBOコード
1	医薬品適正使用の実践（１）	西口	医薬品適正使用の現状と薬剤師の役割を理解する。	
2	医薬品適正使用の実践（２）	辻本	抗菌剤のPK-PD理論および耐性化阻止法を学ぶことで、抗菌剤の適正使用法を理解する。	
3	医薬品適正使用の実践（３）	辻本	PK-PD理論を応用することで、腎機能低下患者における医薬品適正使用を理解する。 薬物相互作用のリスクが高い患者について、その特徴を理解する。	
4	医薬品適正使用の実践（４）	峯垣	ファーマコゲノミクスについて学び、それに関連する代表的な遺伝子・染色体変異の測定法について理解する。	
5	医薬品適正使用の実践（５）	峯垣	遺伝情報から代表的な医薬品の作用発現変動について予測する手法を理解する。	
6	医薬品適正使用の実践（６）	西口	遺伝情報から代表的な医薬品の体内動態変動について予測する手法を理解する。	
7	臨床統計解析の実践（１）	矢野	代表的な臨床論文を読み統計的観点からその概要を理解する。	
8	臨床統計解析の実践（２）	矢野	臨床試験データに対する統計解析手法を理解し実践できる。	

（書名）

（著者・編者）

（発行所）

教科書 使用しない（プリントを配布します）

参考書 ４年次の調剤学（辻本：相互作用）ならびにテラメイド薬物治療学の配布資料

【成績評価方法・基準】

定期試験（100％）にて評価する。

【評価のフィードバック】

合格発表以降、個別に対応する。

【オフィスアワーなど担当教員に対する質問等の方法】

オフィスアワー：月・水・金の17:00～18:00

なお、出張等で不在の可能性もあるので、来室時、事前にメール連絡することが望ましい。

西口、辻本、峯垣：臨床薬学分野（愛学館5階）

矢野：臨床薬学教育研究センタ－（3階）